

多面的機能発現のための 漁港の施設配置計画手法の開発

水産土木工学部

研究の背景・目的

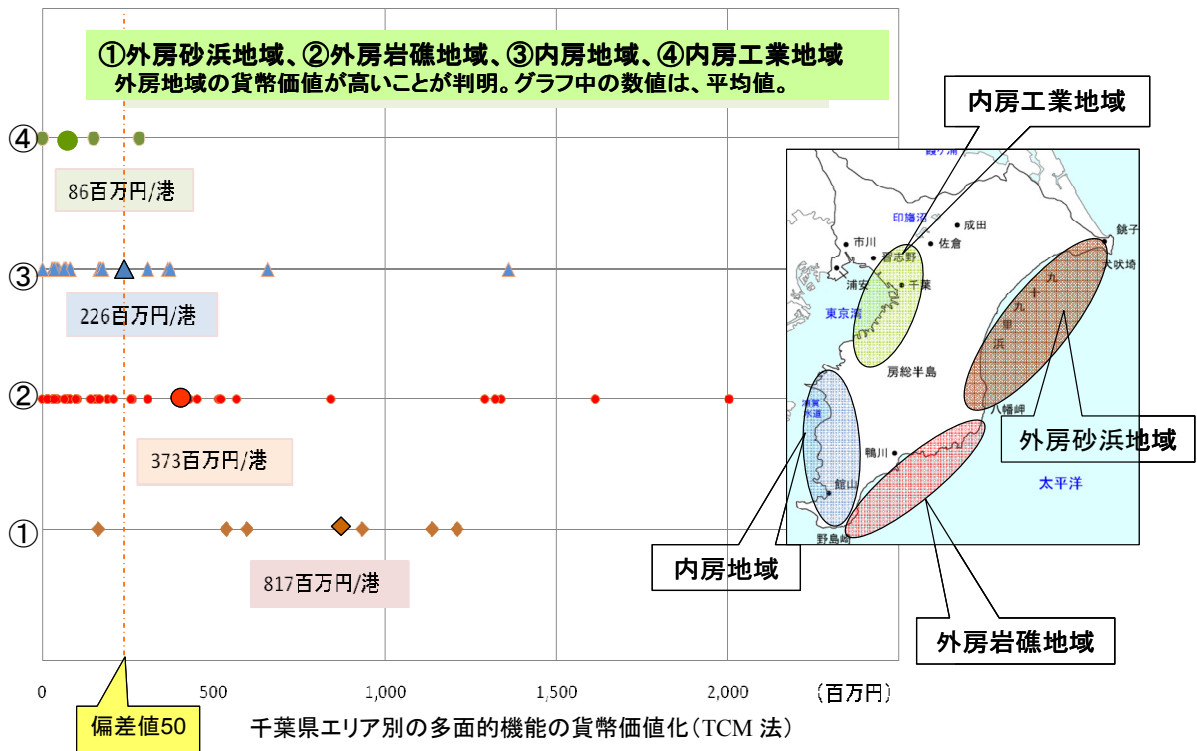
漁港の機能を評価する際、水産業の基地としての本来的な機能のみならず、防災、観光、生活支援など多面的な機能を適正に評価することが求められている。本研究では、漁港施設が担う多面的機能を効果的に発現させるための手法を開発・高度化することにより、漁業生産地域の活性化を図ることを目的とする。

研究の成果

1. 千葉県内の全漁港(69 港)の管理者に多面的機能の発現にかかるアンケート調査及び現地調査を実施し、多面的機能のうち、都市漁村交流機能、余暇活動・体験・学習機能等について、TCM(トラベルコスト法)による定量化(貨幣価値化)を行った。
2. 多面的機能の発現に関し、アンケート調査及び現地調査で取得したデータを分析(重回帰分析等)し、機能の発現要因を明らかにした。

波及効果

1. 多面的な機能を評価し、これを漁港計画に反映させることにより、機能の優れた漁港を実現できる。
2. 漁港機能の発現を増進させることにより、漁業地域の活性化を図ることが期待される。



(水産基盤グループ: 浅川典敬・佐伯公康)